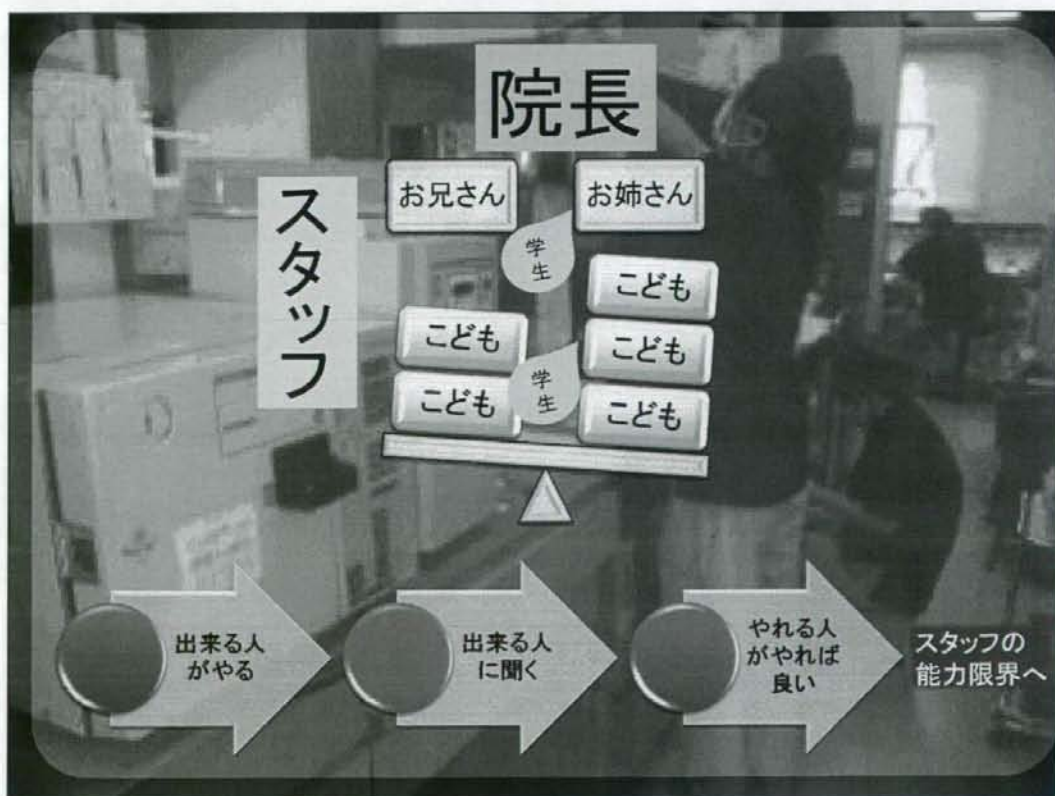


やればやるほど増える
 廃棄物・大きな危険
 言われた通り
 やってるのに
 変！誰のせい？





本腰を入れて医療安全に取り組むまでは...

× 患者一人治療後の汚物



× 歯科医師は治療後次の患者処置に入る衛生士に全てを任せきりにしていた



× 歯科は「治療科」すべてが小外科処置 40人の患者を診たら40個の外科器具

- ・ 簡単な治療でも紙トレーにあふれる汚物を
- ・ 危険物・感染物が混在しても使った本人が種別けもせず
- ・ 当然のように次の患者の治療へ
- ・ 忙しいから当然と思いこんでいた

本腰を入れて医療安全に取り組むまでは・・・

× あちらこちらに汚物が氾濫



- ・ 場所だけがきめられた分別は煩雑で
- ・ 分別しきれない危険物・感染物がトレ一に乗ったまま
- ・ あとでやろうと思っても次の患者に振り回され
- ・ 洗う人と下ろす人の責任分担でトラブル絶えなく

本腰を入れて医療安全に取り組むまでは・・・

× 足もとに未使用の在庫があふれ通路を塞ぐ



× 水のはねる場所に滅菌器
患者の通るすぐそばまで不潔域は近づいていた

- ・ 超音波洗浄器が回っているから
- ・ オートクレーブやガス滅菌をかけているから
- ・ 箱から出していないから
- ・ ここに患者は入っては来ないから
- ・ グローブは変えるから
- ・ 床は掃除屋さんが入るから
- ・ タオル・エプロンは業者さんに出すから

感染性廃棄物の判断フロー

[STEP1] (形状)

廃棄物が以下のいずれかに該当する。

- ① 血液、血清、血清および体液(精液をふくむ。)
- ② 病理廃棄物(臓器、組織、皮膚等)
- ③ 病原微生物に関連した試験、検査等に用いられたもの
- ④ 血液等が付着している鋭利なもの(破損したガラスくず等を含む)

Yes

No

[STEP2] (排出場所)

オペ室、検査室などにおいて治療、検査等に使用された後、排出されたもの

Yes

No

[STEP3] (感染症の種類)

- ① 感染症法の一類、二類、三類感染症、指定感染症および新感染症ならびに結核の治療、検査等に使用された後、排出されたもの
- ② 感染症法の四類および五類感染症の治療、検査等にしようされた後、排出された医療器材等。

Yes

No

非感染性廃棄物

(注) 次の廃棄物も感染性廃棄物と同等の取り扱いとする

- ・ 外見上血液と見分けがつかない輸血用血液製剤等
- ・ 血液等が付着していない鋭利なもの(破損したガラスくず等を含む。)

(注1) ホルマリン清浄器等を含む。

(注2) 病原微生物に関連した試験、検査等に使用した培地、試験管、シャーレ等

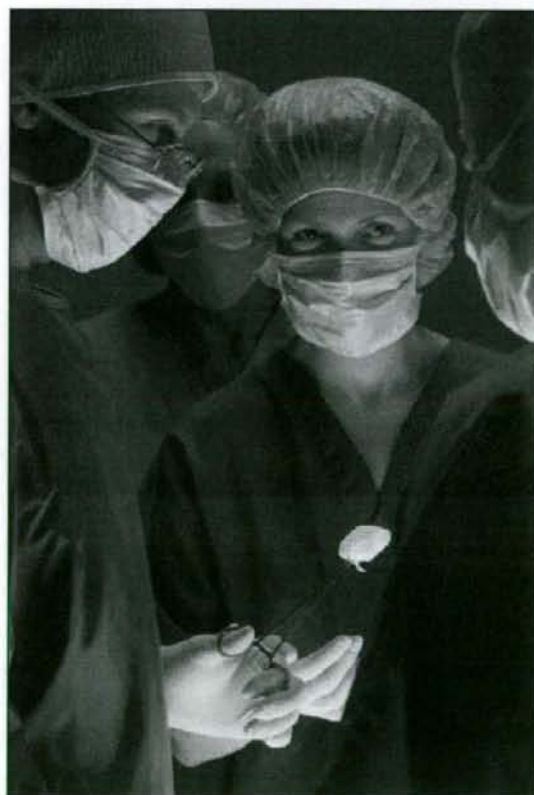
(注3) 医療器材としての注射針、メス、破損したアンプル・バイアル等

(注4) 感染症法により入院措置が課せられる一類、二類感染症、指定感染症および新感染症の病床

(注5) 医療器材(注射針、メス、ガラスくず等)、 Disposable の医療器材(ピンセット、注射器、カテーテル類、輸液点滴セット、手袋、血液パック、リネン類等)、衛生材料(ガーゼ、脱脂綿等)、標本等

(注6) 感染性・非感染性のいずれかであるかは、通常はこのフローで判断可能であるが、このフローで判断できないものに関しては歯科医師の判断にゆだねる。

感染性廃棄物



ちょっと聞いた？
院長研修医とるんだってよ？
まだやんの？
まじ？これ以上は面倒見れないってば
無理…無理…

でもイヤだって言っても、やるんでしょ
どうすんの？大丈夫？

これから大変になるから…
辞めたい人は申し出てください

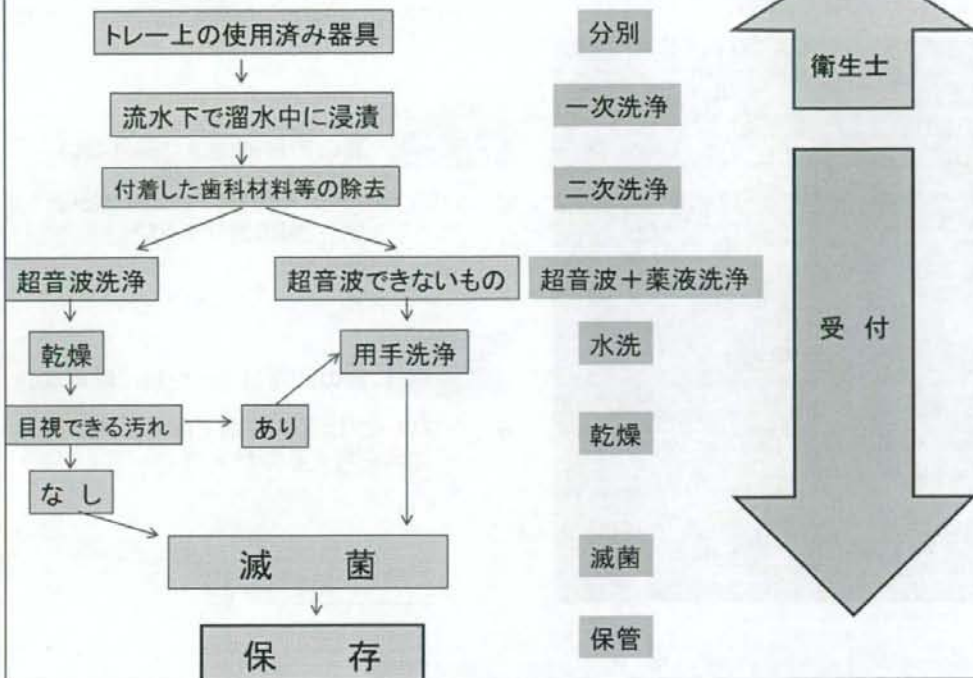
沈黙

これ全部やるの？全部教えられる？
ムリー
マジひくわあ
エエ？時間ないし…機械は大体ある？

あれこれ あれこれ がやがや どたどた

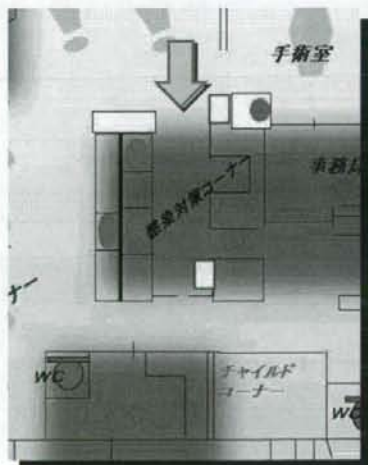
チャレンジャー達に感謝！！

作業の再分析・工程の再確認



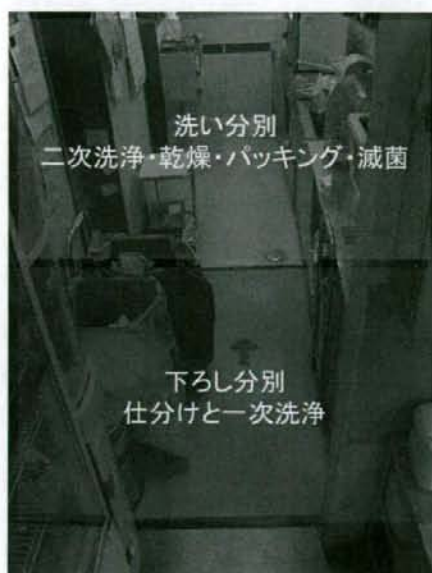
感染対策コーナー

(ワンウェイ構造)



清潔域と不潔域(明瞭なゾーニング)

何が汚い？どこが汚い？



青の門番は血液に触れない
きれいなパッケージも汚れた手で触ったら
何の意味もない

赤の門番は洗った物に触れない
使ったグローブはどの段階で廃棄するか？
これ考えるのが大切

分別と場の門番を分ける

処置終了時の分別



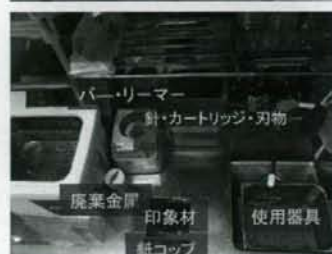
水場を下ろした際の分別

1. 感染物の仕分け分別(血液・体液・薬剤)



血液・体液の付いたゴミは赤のゾーンまで

診療を終えたものを持って来た者が、責任を持って分別し終わったら、グローブも捨てる



一次洗浄域

流水下(患者がいる限り水が流れている状態)

洗う際・パッキングする際の分別

1. 洗い分別(器具点検)



血液・体液の落とされた器具を種別けして薬液と機械を使って二次洗浄

器具・刃先の点検確認を必ず行う



洗濯・乾燥コーナー



外に持ち出すものと
院内から出さないもの
分別



汚れたら拭ける素材

普通洗濯物

感染洗濯物

汚れた白衣はここで脱ぐ



感染物保管場所
(回収業者が来るまで保管)

適切に作りの確に使う



在庫 1



- × 薬ピンは液ダレを受けるトレーの上
- × 在庫は誰が見ても一目でわかるように
- × 似ている瓶には目印
- × 使用期限があるものは開封者が記載

在庫 2



- × 引出しに印
- × 在庫一目で
- × 紙物は乾いた環境
- × 滅菌日を記載



鍵（劇毒薬・取扱い注意薬・カルテ・個人情報）



- × 取扱い注意の場所は鍵
- × 劇毒物は赤印まとめて管理

リストシート作成



- 写真にとって一段毎ルールを残す
- 仕舞いやすく片付けるか
- 出しやすく片付けるか
- 在庫の管理者と使用者は同じか別か
- 新人が入って来た時すぐに実践できるか
- 在庫は開封日と使用期限を記載
- 滅菌日を記載
- 院内ルールをシート化

使用していない時は覆う



× 使用していない時は覆う
× 埃を除きやすく



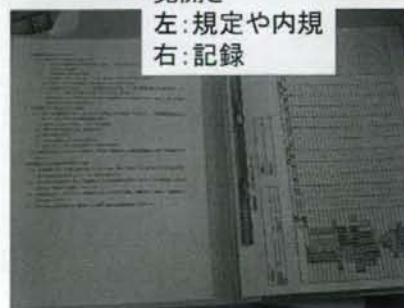
× 埃が入らないように

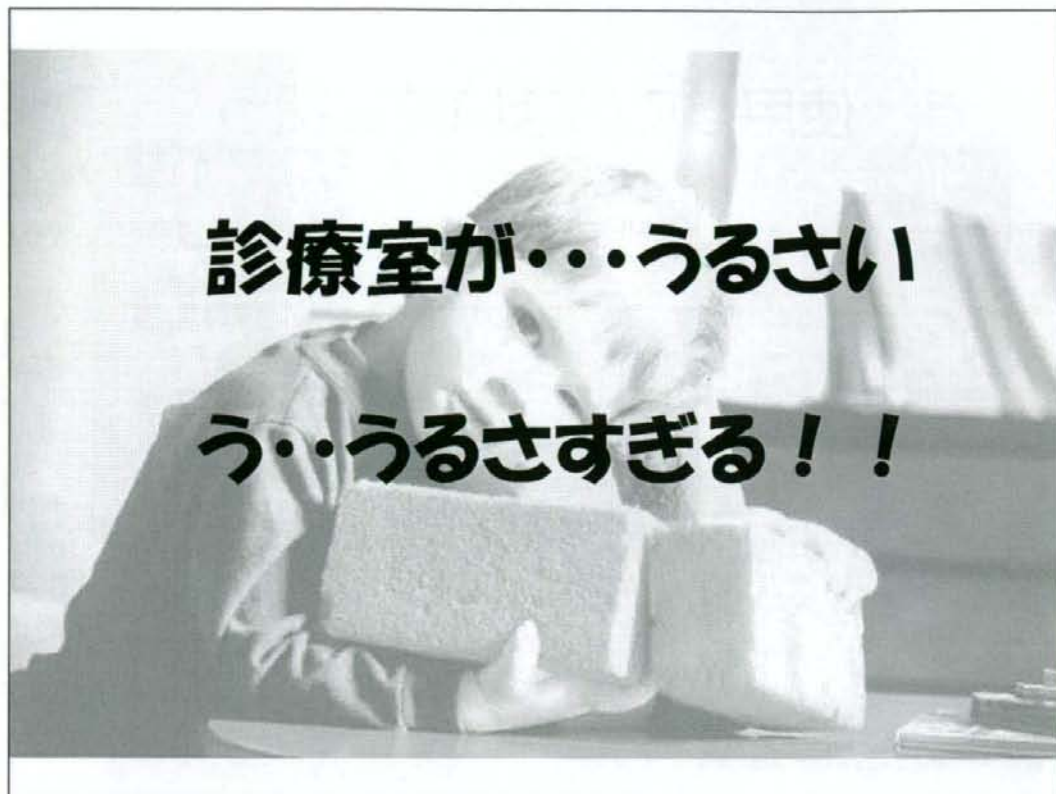


指針・マニュアル・資料策定



見開き
左: 規定や内規
右: 記録





診療室が・・・うるさい

う・・・うるさすぎる！！

医療安全

1. 室内構造の整備

待合室・診療室内の死角を減らす
意図的的外来侵入者想定対策
火事・自然災害想定対策

2. 診療室管理区域の整備

各ポジション「場と門番」決める
「門番」役割分担

3. 院内機能の整備

診療前・後打合せ
掲示板

- 8歩以内で
- 2人一組
- 侵入者に対しモニター設置
- 患者安全のためセコム
- 火報
- 受付はトイレ・玄関・待合室
- 衛生士は診療室・レントゲン室・オペ室・技工室
- 仕事の標準化とルール作り
- ミーティング
- 報告会・検討会

気づいたら義務
口術は記述に直す

問題点

目に見えるもの、気持ちで気づいて解決していくもの
どんどんやってどんどんきれいにした
どんどん頑張ったら研修施設の要件を超えていた
別のことに気がついた
どんなにハードを整備しソフトを充実しても
何とも言えない死角が残った
もう頑張れない・・・

日本歯科大学新潟校の麻酔科藤井教授が
上戸 綾の「アテンションプリーズ」の話をしていた

空港へ行ってみよう！

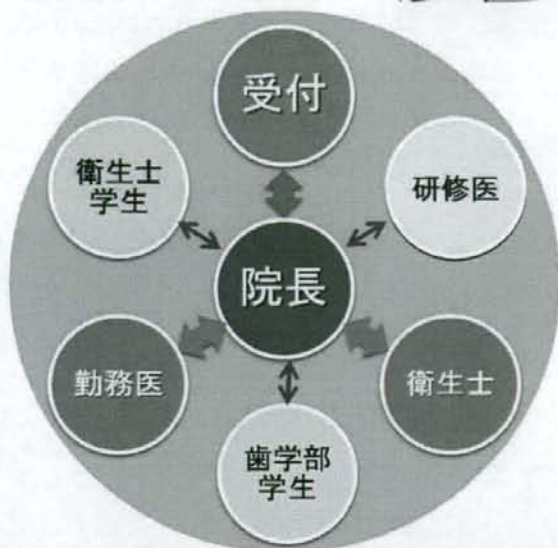
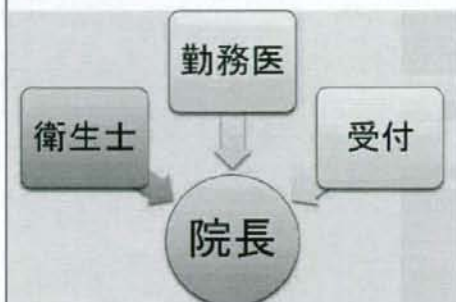
インカムを考える

- ハードを整備し、ソフトを整備しても死角が存在した。聞いた。聞いてない。言った。言わない。見た。見ていない。それは、不注意といえればそれまでだが、一生懸命が結果を生まない事態でもあった。
- もし、ここで地震が起こったら、もしここで変質者が入ってきたら、そしてもし診療室で誰かが倒れたら・・・不注意では済まされないだろうなあ。
- 周知義務について考えた。
→ アテンションプリーズにヒント：空港に行ってみた
地上スタッフはトランシーバー
機内は音と信号と機内フォン → インカムへ



インカム整備の目標

1. 情報の共有化
2. 緊急時対応の迅速化



「患者急変における意識消失・心肺停止に対する救急処置」

—通報と応援要請, CPR, AEDスイッチON, 救急隊への送りまで—

Uクリニック五十嵐歯科・U歯科合同
危機管理研修プログラム

1. 術者施術中の急変対応
2. 地域災害医療現場での参加への練習

院内研修

麻酔科マニュアル座学

話題TV場面から学ぶ

オペDRを中心

(人形・インカム使用して
危機管理研修(実習))

院内オールコール

シミュレーション実技

平成20年度開催

北海道医療大学

クラウンブリッジ・インプラント

補綴学分野

教授 越智 守生

歯科麻酔科学分野

講師 工藤 勝

事件が起こりました

研修後2か月

声掛け
他の患者コントロール
応援要請
意識確認
状態確認
呼吸確認
記録
申し送り

待合室で治療を待っている子どもが痙攣をおこす
母親に尋ねても「てんかん発作」の既往はない

インカムにて受付スタッフが全員にコール
院長は治療を中断してかけつけた。硬直・呼吸停止
スタッフ1.救急車呼びます 配備
てんかんありますか？断続的体動と痙攣と流涎・いびき
スタッフ2.酸素分圧計と血圧計準備してかけつけ
、酸素はどうしますか？
スタッフ残りはそのまま治療を続けた
5分で救急車が来ます。
お子さんのかかりつけの病院があれば連絡してください
記録をとります
幸い呼吸が安定した頃救急車到着
救急隊への申し送りはスタッフが行い7分弱で対応終了

CPR・AEDこそなかったがまさしく練習通りのことが起こった！！

院内で行う医療安全教育・研修

医療安全と標準化

通年研修プログラム

☆院内マニュアルの見直し(毎年3月予定)

1. 廃棄物分別訓練
2. 各種分別作業工程確認研修
3. 清潔域・不潔域区分確認
4. 危険物取扱確認
5. ヒヤリハット分析

(毎月十年間報告の再分析)

☆院内危機管理実習

- 日本予防医学リスクマネジメント学会
学会主催勉強会＋ワークショップ参加
- 日本歯科医療管理学会参加
- 臨床研修制度管理型施設主催勉強会参加
- 県市歯科医師会主催各種勉強会参加

新規採用者用プログラム

☆新規採用者医療安全オリエンテーション

1. 院内マニュアル配布
例：スタンダードプリコーション徹底
2. 新規DrおよびDHはマニュアルに沿って指導DHと実技
3. 衛生士学校学生毎のオリエンテーション

☆過去のヒヤリハット・アクシデントレポート熟読・考察

☆インカム練習

どうしたら感染対策が実行できると思うか
新人の方に直接質疑応答行う

医療安全・管理体制を理解する

□一般目標

業務として医療行為が毎日安全に執り行われるために配慮工夫されている診療所の取り組みを理解し自分が実践者として求められることを考え習慣化していく

□到達目標

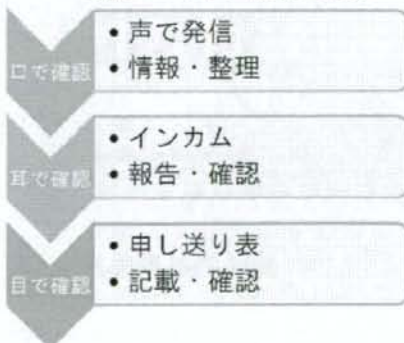
歯科医療において歯科医院が取り組んでいる安全性への配慮と危機管理の意識について院内マニュアルを理解し習慣となるよう行動する

1. 診療室内の危険区域・個人情報の管理区域を理解し区域内での対応を自らのものにする
2. 歯科医師が行う危険物準備・危険物取扱・感染物・廃棄物分別は徹底して理解し行動する
3. 診療室内における報告・連絡・相談・記録の重要性を理解し習慣化するよう行動する
4. 院内の過去のヒヤリハットやアクシデントレポートを読み自分ならどうするか考える
5. 院内で取り組んでいる多様なダブルチェックを理解し、なぜそうするか考える

個人的油断が診療室全てを飲み込む
惨事となり得る

■ 医療安全・管理体制

院内マニュアル確認・熟読



All Call・院内の異常を院内者全員へ伝える
パニックボタン・院内の異常を院外へ伝える
火災警報ボタン・院内外へ火災を知らせる

業務運営形態を理解する

□一般目標

職場としての診療室、職業としての医療行為を客観的にみつめ、そこで要求される社会人としての実践的能力について自ら考え養い理解する

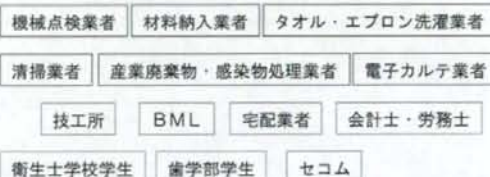
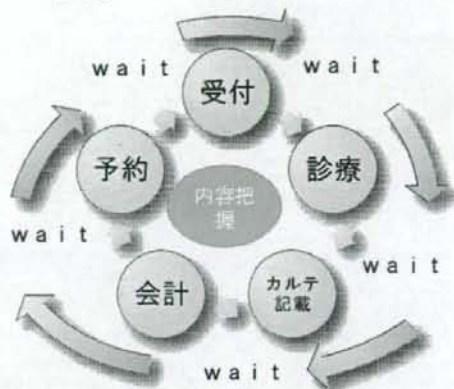
□到達目標

診療室の構造・診療室スタッフ構成・取り巻く人等の環境を理解し、自分もチームの一員であると自覚し行動する

1. 診療室の構造と診療室スタッフを覚える
2. 他職種・他業者が医療業務と医院運営に関与していることを理解する
3. 毎日来院する業者・学生・技工士などに対し診療室スタッフとして社会人らしい対応をする（明るく元気な挨拶）
4. 業務運営形態を理解する

油断をすれば他職種・他業種にも感染が蔓延する

診療フレーム



模擬研修1 インカム利用研修

□一般目標

実際の診療に入る前に衛生士学校学生および歯学部学生に対して模擬研修を行い診療中の対応を理解する

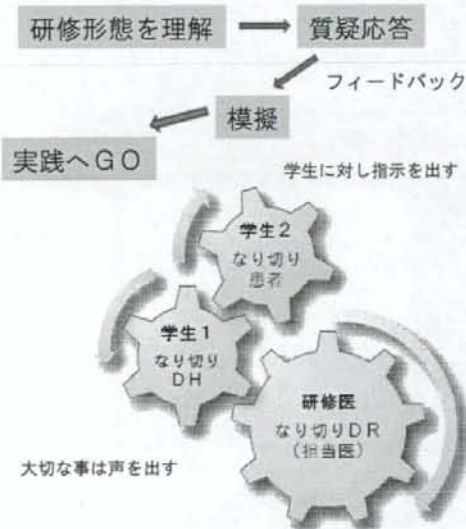
□到達目標

隣接するユニットで実際に治療している内容に沿って研修医と学生は声を出した動作を真似て診療の際の取るべき対応・所作について模倣をしながら理解する

1. 正しい指示の出し方を理解し見合った行動する必要性を理解する
2. 相手が学生という慢心をもたないよう指導医および衛生士に指導を要請する
3. 手先や声が震えなくなるまで何度でも自信がうまれるまで繰り返すことを自分に課題化する
4. 自信が生まれたら学生のために患者役を引き受け学生を指導する行動をする

診療室にいる限り診療室スタッフであるスタッフ責任の在り方

診療スタイル模倣



医療の質や安全教育に対する提言

使ったものの掃除

- 感染対策の実践

使うものの整理

- 医療標準化

ハコの整備

- 死角を減らす

ハードの整備

スタッフの年齢

- 年代と方法を考える

共感行動

- メディアの利用

意識の改革

- 不安の払拭

ソフトの充実

真剣に医療安全に取り組んでみて

衛生士が目視下で徹底的にきれいにしてから
ドクターが治療を行う

薬液洗口

歯ブラシ
(デフライドマン)

治療

感染源のコントロール

絶対条件

スタッフ全員の共通認識

周知義務について考えるべき

SIGNAL
KOMMT

KOMMT

飛行機の機内
赤の時「音」

受付・スタッフルーム・院長室・診療室に赤青信号
赤の時には緊急事態発生

口で確認

- 声で発信
- マイク・インターフォン

耳で確認

- 音を聞き分ける
- インカム

目で確認

- 色で見分ける
- 信号

必要条件

院内で行う安全で安定した治療を目指して
開業医が開業医らしくあるために

指導顧問招来

北海道医療大学
越智守生教授
藤井建夫准教授

開業医は何をやっても良い？
モラルは大丈夫？
歯科医師の慢心が一番怖い



具備条件

院内で行う安全で安定した治療を目指して



プロフェSSIONALからプロFESSIONへ

- 自分らしい診療スタイルを探して
- ◎患者に学ぶ・・・辺りの歯科医院が嫌う患者が集まった赤ん坊を連れてくる母親
 - ◎師長に学ぶ
中央材料室(ザール)での体験
 - ◎生涯ここに住む
今後起こる大規模地震災害指定地域